

第5学年 「心広がる場面」(絵に表す) 学習指導案

1 授業構成

目標と表現内容

本題材は、物語の中から表したい場面を選び、自分の思いがよく表れるように画面構成や彩色を工夫して絵に表すことをねらいとしている。

目標

- 自分の思いがよく表れるように、画面構成や彩色の工夫を考えることができる。
- 自分の思いにあった用具や技法を選択し、表現することができる。
- 自分や友達の表現の違いやよさを感じとり、認め合う。

表現内容

○何を：物語の場面の絵を

○何で：【主材料】画用紙、スケッチペン、わりばしペン、コンテ、絵の具で

【造形要素】

- ・中心の大きさや位置、遠近、重なり、方向を工夫した構図
- ・混色、重色 ・にじみ、ぼかし
- ・スパッタリング
- ・色の組み合わせによる色調の違い

○どのようにして：

- ・いろいろな線描材から選んで
- ・あたりカードを使って
- ・色やぬり方を工夫して
- ・お互いの作品を交流して

子どもの実態と本題材でつきたい力

本学年の子どもたちの「ゆらゆらモバイル」(工作に表す)で見せた以下の実態から、本題材でつきたい力を次のように考えた。

《 子どもの実態 》

- ・参考作品や友達の作品を見て、どこが面白いのか気付くことができた。
- ・試しや確かめを通して、作業手順や材料の有効な使い方やバランスのとれる部品の配置やつるし方を考えることができた。
- ・電動糸のこぎりを正しく使い、思い通りの線で切り抜いて部品をつくり、バランスよくつるすことができた。
- ・自分や友達の作品や活動を見て、よいところを具体的に見つけ、お互いに認め合うことができた。

感性

思考力

表現力

評価力

《 つきたい力 》

- a 参考作品や友達の作品のよさを味わう。
- b 物語を聴いて、自分が表したい場面を思い描く。
- c 自分の思いを表すためには、画面構成や彩色をどのように工夫したらいいのかわかる。
- d 課題の解決方法を考え工夫する。
- e 自分の思いが表れるように、線描きをする。
- f 場面の様子や雰囲気が表れるように用具や方法を選択しながら彩色する。
- g 活動を振り返り自分や友達の表現のよさや課題に気付く。

4つの力を働かせ、認知する活動や手立て

本題材の指導にあたっては、子どもが上記の力を働かせ認知することができるように、教えることを下記のように明確にし、以下の活動を設定する。また事前に「見取りたい子どもの姿」を設定し、見取り表を用いながら共感的な価値づけを行っていく。

◆教えること

- ・画面構成(中心の大きさや位置、遠近、重なり、方向)
- ・あたりのつけ方
- ・鑑賞の視点
- ・色の工夫(混色・重色)
- ・筆遣いの工夫(にじみ・ぼかし)
- ・他の用具をつかった技法(スパッタリング)

㊟ 探求活動

- ab 絵に表しやすい物語の読み聞かせ
- ab 参考作品の提示
- cdef 彩色の試しコーナーの設置
- c あたりをつけること
- cd 混色見本表
- cde 画面構成の資料
- cf 彩色の技法の資料

㊞ 交流活動

- g 気付きを出し合える話し合い活動
- g 友達のいいところを伝えられる鑑賞カード
- g 視点をはっきりさせた交流活動

㊞ 振り返り活動

- g 4つの力の自己評価
- g 写真による活動の振り返り
- g 自分の作品や活動のよさを振り返って伝える出品カード

共感的価値付け

- ・見取りたい子どもの姿の設定
- ・見取り表の作成
- ・言葉掛け
- ・コメント書き
- ・聞き取り
- ・まとめの価値付け

2 指導計画 (11時間)

◆教えること ㊟探求活動 ㊞交流活動 ㊟振り返り活動

配時	発想・構想 ①②③	表現(線描) ④⑤⑥ (本時4/11)	表現(彩色) ⑦⑧⑨⑩ (本時9/11)	鑑賞 ⑪
話 な 動	1 思いをもち、それが表れるように画面構成を工夫してラフスケッチをする。	2 思いがよく表れるように、画面の組立てをさらに工夫して線描きをする。	3 思いがよく表れるように中心になるものや周りの彩色をする。	4 自分や友達の仕事のよさを味わう。
見 取 り ど た も い の 姿 の 例	<ul style="list-style-type: none"> 参考作品に込められた表現主題を感じ取り、表現の工夫のよさに気付く。 表したい場面について様子や雰囲気を思い描く。 ラフスケッチをしながら、中心になるものの位置や大きさ、画面の構成を、いろいろと試し考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 思いを表すために、中心になるものの位置や大きさなどを考える。 線描材の特徴を生かして線描きをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面の様子や雰囲気が表れるように、資料を見たり、試したりしながら、彩色の工夫を考える。 用具を使いこなし、その扱いになれる。 友達の表現のよさをみつけ、ヒントにしなが自分なりの工夫を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の仕事のよさや美しさに関心をもって見ている。 自分や友達の表現のよさや変容をとらえている。 友達の表現の意図やよさをとらえている。
か せ る を 認 手 働 か す	<p>◆あたりのつけ方</p> <ul style="list-style-type: none"> ㊟中心の大きさや位置の資料 ㊞全体交流 ㊟画面構成・線描資料㊟アイデアスケッチ ㊟スケッチメモ ㊟参考作品㊟振り返りノート 	<p>◆あたりのつけ方</p> <ul style="list-style-type: none"> ㊟振り返りノート ㊟参考作品 ㊟画面構成資料 ㊟グループ・全体交流 	<ul style="list-style-type: none"> ㊟筆のタッチ(資料コーナー) ㊟彩色の技法の資料と試しコーナー(混色、重色、にじみ、ぼかし、スパッタリング) ㊟振り返りノート ㊟グループ交流 	<p>◆鑑賞の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ㊟鑑賞カード ㊟鑑賞会 ㊟振り返りノート ㊟グループ・全体交流
学 習 活 動 と 内 容 (O)	<p>(1) 物語を聴き、絵に表したい場面を決める。 ○絵に表したい物語の場面について、振り返りノートに書くこと (感・思)</p> <p>(2) 参考作品を鑑賞し、物語の絵で表したい自分の思いを確かにして、学習の見直しをもつ。 ○参考作品に込められた表したい思いを感じ取り、表現の工夫に気付くこと (感) ○線描材を試すこと (感・思)</p> <p>(3) 自分の思いが表れるように、ラフスケッチをしながら、画面構成を工夫する。 ○ヒント資料をもとに、画面構成の工夫に必要なことについて話し合うこと (思) ○ラフスケッチをしながら、中心になるものの位置や大きさや画面の組み立てを、いろいろと試し考えること (思)</p> <p>(4) ラフスケッチをグループで見せ合いながらよさを話し合う。(評)</p>	<p>(1) ヒント資料をもとに自分のラフスケッチを見直し、思いがよく表れるようにさらに画面構成を工夫しながら線描きをする。 ○表したい思いに合うような線描きの画材を選ぶこと (思) ○ヒント資料を見て表現の課題に気付くこと (感)</p> <p>○思いを表すために、中心になるものの位置や大きさなどを考えること (思)</p> <p>(2) 描いた線描きをグループで見せ合いながらよさを話し合う。 ○友達の表現のよさを見つ、ヒントにしなが自分なりの工夫を考えること (評)</p>	<p>(1) 自分の思いがよく表れるように中心になるものの彩色を工夫する。 ○資料を見たり、試したりしながら、彩色の工夫を考えること (思・表) ○水彩絵の具を正しく使い、その扱いになれること (表)</p> <p>○友達の表現のよさをみつけ、ヒントにしなが自分なりの工夫を考えること (評)</p> <p>(2) 自分の思いがよく表れるようにまわりの彩色を工夫する。 ○場面の様子や雰囲気が表れるように、資料を見たり、試したりしながら、彩色の工夫を考えること (思・表) ○表現技法の効果を生かして表現すること。(表)</p> <p>(3) グループで作品を見せ合い、よさを話し合う。 ○友達の表現のよさをみつけ、ヒントにしなが自分なりの工夫を考えること (評)</p>	<p>(1) 友達の作品を紹介しあう鑑賞会をグループでする。 ○友達の仕事のよさや美しさに関心をもって見ていること (感) ○自分や友達の表現のよさや変容をとらえていること (評)</p> <p>(2) 全員の作品を掲示し、作品を鑑賞する。 ○友達の表現の意図やよさをとらえていること (評)</p>

4 / 11 時間

第5学年 本時図画工作科学習指導案

6 展開

3 本時目標

- 自分の思いがよく表れるように、中心になるものの位置や大きさ、場面の様子や雰囲気を考えて画面構成を工夫しながら線描きをすることができる。
- 活動を振り返り、表現のよさや課題に気付くことができる。

4 授業仮説

以下の活動を設定し共感的な価値付けを行えば、子どもたちは、自分の思いに合わせて画面構成の工夫をしながら線描きすることができるであろう。

- ㊦子どもたちの課題をもとにしたヒント資料の提示
- ㊦中心の位置や大きさを試し、思考することができるあたりカードの準備
- ㊦㊦自分の活動や表現のよさに気づき、次時への見通しをもつための振り返り

5 準備

子ども…図工ノート、ラフスケッチ
はしペン、コンテ、スケッチペン
教師…ヒント資料、あたりカード、黄色いチョーク、見取り表、主題一覧フィルムケース、脱脂綿、墨汁、コンテ

主な学習活動と内容 (○)	力を働かせ認知する活動と手立て及び教えること (◆)	見取りたい子どもの姿の例
<p>1 前時を想起し、本時のめあてを知る。 ○ヒント資料から、思いを表すための工夫に気付くこと (感)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>思いがよく表れるように中心になるものの位置や大きさ、周りの様子やふんい気を考えて線描きしよう。</p> </div> <p>2 ラフスケッチをもとに、自分の表したい思いや場面の雰囲気がよく表れるように、線描きする。 ○自分の思いがよく表れるように主となるものの位置や大きさを考えること (思) ○自分の思いがよく表れるように、線描材の特徴を生かし、使い方を工夫しながら線描きすること (表)</p> <p>(1) 試しながらあたりをつけ、主となるものの位置や大きさを決める。 (2) 線画材で線描きする。</p> <p>3 本時の活動を振り返りながら、次時の活動への見通しをもつ。 ○自分の活動や表現のよさや課題に気付くこと (評)</p> <p>(1) 本時の活動について振り返り、話し合う。 (2) 本時の学びを確かめ、次時についての見通しをもつ。</p>	<p>㊦㊦思いを表す工夫に気付くように、子どもたちのラフスケッチの画面構成の課題をもとに作成したヒント資料を提示する。 ㊦振り返りノートから自分の表したい思いをはっきりさせ、本時のめあてをもたせる。</p> <p>㊦主となるものの位置や大きさのあたりがつけやすいように、必要に応じてカードやチョークを使用するようにする。 ◆あたりカードの使い方やチョークの使い方</p> <p>㊦自分の表したい思いや場面の雰囲気がよく表れるように、画面構成の資料コーナー、物語ごとの取材コーナーを設置する。</p> <p>㊦㊦グループで作品を見せながら交流し、よさや課題に気付くようにする。 ㊦友達の表したい思いが分かるように、思い・表現意図・主題の違い一覧をもたせておく。 ◆思いがよく表れるように画面構成を工夫できるようにすること ◆位置や大きさ、周りの様子や雰囲気を考えると、思いがよく表れること</p>	<p>・ヒント資料から、2つを比べどちらが思いを表すのに効果的か気付いている。 ・自分の表したい思いについて話す。</p> <p>・あたりカードを使って、主となるものの位置や大きさを考えている。 ・指やチョークを使ってあたりをつけている。 ・線画材の線を試しながら、特徴を生かして線描きをしている。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ペンの面や角を使って太い線や細い線を描くよ。</p> </div> <p>・位置や大きさ、重なりや方向、遠近など画面構成を考えながら線描きしている。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>金の鳥とハサンの大きさや位置遠近が出てるね。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>象が堂々と歩いているように大きさや動きを考えたね。</p> </div>

6 展開

3 本時目標

- 自分の思いがよく表れるように工夫を重ねながら意欲的に表現を楽しむことができる。
- 場面の様子や雰囲気がよく表れるように、自分の思いにあった用具や技法を選択し、表現を工夫できる。

4 授業仮説

以下の活動を設定し共感的な価値付けを行えば、自分の思いや場面の様子や雰囲気がよく表れるように、用具や技法を選択し、表現を工夫することができるであろう。

- ㊦自分の思いにあった技法を選ぶことができる資料コーナー（混色、重色、にじみ、ぼかし、スパッタリング、筆のタッチ）
- ㊦技法の効果を試すことができる試しコーナー
- ㊦自分や友達の表現のよさを見つけるグループ交流や全体交流
- ㊦机の配置交流を促す机の配置

5 準備

子ども…絵の具、図工ノート
 教師…混色見本表、彩色の技法の資料（重色、にじみ、ぼかし、スパッタリング、筆のタッチ）・金網・ブラシ

主な学習活動と内容（○）	力を働かせ認知する活動と手だて及び教えること（◆）	見取りたい子どもの姿の例
<p>1 前時を想起し、本時のめあてを知る。</p> <p>○場面の様子や雰囲気がよく表れるように周りの彩色をする意欲をもつこと（思）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>思いがよく表れるように、色のつくり方や筆遣いを工夫して周りの彩色をしよう。</p> </div> <p>2 色のつけ方や使ってみたい技法を確かめる。</p> <p>○本時の活動の見通しをもつこと（思）</p> <p>3 自分の思いがよく表れるように周りを彩色する。</p> <p>○自分の思う場面の様子や雰囲気に合った色や技法を選んだり組み合わせたりすること（思・表）</p> <p>○資料を見たり、試したりしながら、彩色の工夫を考えること（思・表）</p> <p>○用具の使い方に慣れ、思い通りに彩色すること（表）</p> <p>4 本時の学習を振り返り、交流し、次時の活動への見通しをもつ。</p> <p>○グループで交流し、互いの工夫のよさを見つけること（評）</p> <p>○活動の楽しさに気付くこと（感）</p> <p>○今日の学習での学びや気付きを認知すること（評）</p>	<p>㊦全体交流をして前時までの学習を想起させる。</p> <p>㊦活動の見通しを具体的にもつために、全体のめあてとともに個人めあてを確かめさせ、画用紙の裏に書かせる。</p> <p>㊦見通しをもつためにグループ間で自分の本時の活動を伝え合う交流活動を設定する。</p> <p>㊦自分の思いにあった技法の効果を確認できる試しコーナーを設置する。</p> <p>㊦技法を選べるようにするために彩色の技法を掲示する。</p> <p>㊦グループの友達の作品や活動が見やすく交流しやすい机の配置にする。</p> <p>◆明暗など色の組み合わせによる感じの違い</p> <p>◆濃淡・にじみやぼかしなど水加減による感じの違い</p> <p>◆筆のタッチによる感じの違い</p> <p>㊦㊦技法の表現の仕方がわからない子どもに演習をして見せたり、参考になる友達の活動を紹介したりする。</p> <p>㊦グループで互いの作品を見合う時間を設定する。</p> <p>◆色づくりや筆使いを工夫すると思いがよく表れること</p>	<p>・自分の思いと結びつけながら前時までの活動を振り返っている。</p> <p>・自分のめあてをもっている。</p> <p>・何のためにその技法を使いたいか伝えている。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>鳥が輝いているように表したいから、スパッタリングを使おう。</p> </div> <p>・自分の思う場面の様子や雰囲気が表れるように、技法の効果を試しながら、彩色の工夫を考えている。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>山が遠くにあるように見せたいから薄い色をぼかして塗ろう。</p> </div> <p>・スパッタリング等のやり方を教え合っている。</p> <p>・友達の表現のよさが分かり、それをヒントにしながら自分なりの工夫を考えている。</p>